

|       |                              |          |      |                  |
|-------|------------------------------|----------|------|------------------|
| 授業科目名 | 環境と経済                        |          | 単位数  | 2 単位             |
| 授業テーマ | 経済活動と環境問題との関係や問題解決の方法について考える |          | 配当年次 | 2 年次生 ~          |
| 担当者名  | い てーよん<br>李 態妍               | 開講<br>形態 | 後期   | 開講<br>曜講時<br>月 4 |

### ・ 講義概要

21 世紀は環境の世紀とされ、「温暖化問題」、「酸性雨問題」、「ゴミ問題」、「環境ホルモン」、「ダイオキシン」などの用語が日常的に使われるようになりました。本講義では、そもそも「環境」とは何か、なぜ環境問題が発生するのか、問題を解決する方法と問題発生を防ぐ方法はないのか、また環境と経済はどのような関係があるのかなどについて、身近なところから事例を取り上げ、考えていきます。

### ・ 進め方

受講者数によって授業形式が異なります。 、 の場合、資料を配布する予定。

20 人まで：ゼミ形式 教科書の輪読 + グループ発表

45 人程度：講義 + ゼミ形式 講義（小テスト、授業中発表） + ディベート

45 人以上：講義（小テスト、授業中発表）

**注意点** 第 1 回目の参加者 = 受講者として授業形式を決定しますので、第 1 回目の授業には必ず参加してください。

### ・ 成績評価方法

授業形式によって評価方法が異なります。

**ゼミ形式**：平常点とグループ発表の結果で総合的に評価。

**講義 + ゼミ形式**：期末試験 60%、平常点 10%、ディベートの結果 30%で評価

**講義**：期末試験 70%、平常点 30%で評価

### ・ 担当者から一言

本講義では、「積極的な授業参加」と「考える」を基本として進めますので、自分の考えを発表する意思がある学生を歓迎します。なお、講義中の迷惑行為は一切禁じます。

### ・ テキスト（書名 / 著者・編者名 / 出版社名 / 定価）

天野明弘「環境との共生をめざす総合政策入門」有斐閣アルマ 1997 年

### ・ 参考文献（書名 / 著者・編者名 / 出版社名 / 定価）

植田和弘、「環境と経済を考える」、岩波書店、1998 年

植田和弘「環境経済学への招待」丸善 1998 年

【連絡先】オフィスアワー：月 5 講時

研究室：紫英館 5F-509、TEL：075-642-1111、E-Mail：[tlec@econ.ryukoku.ac.jp](mailto:tlec@econ.ryukoku.ac.jp)

## 講義計画

|    | テーマ              | 概要（キーワード）                |
|----|------------------|--------------------------|
| 1  | ガイダンス            |                          |
| 2  | 環境とは             | 環境の定義、エコロジー              |
| 3  | 世界国々のすがた         | 成長と発展、指数的成長              |
| 4  | 人口について考える        | 出生率・死亡率、人口増加の歴史、都市化      |
| 5  | 地球の収用力はどれくらいか    | 土地、食糧、エネルギー、資源など         |
| 6  | 公害と汚染物質          | 有害汚染物質、大気汚染、水質汚染、土壌汚染など  |
| 7  | 地球環境問題を考える       | オゾン層の破壊、酸性雨、地球温暖化など      |
| 8  | 経済システムの効率性とは     | 競争的経済、社会的余剰              |
| 9  | 伝統的な市場の失敗        | 外部性、公共財                  |
| 10 | 市場経済システムの限界      | 効率性と公平性                  |
| 11 | 政府の失敗と公共政策の思想的背景 | 民主主義、政府、分権化の問題点          |
| 12 | 市場・政府の失敗を是正する    | 環境政策手段の特徴                |
| 13 | 権利と協力のかかわり       | 私的な利益・費用 VS 社会的な利益・費用    |
| 14 | 企業行動と環境          | 生産システム、環境対策、エコライフ指標      |
| 15 | 消費者行動と環境         | ライフスタイル、リサイクル活動、家族規模、外食化 |